



令和6年10月

発行者
たんぽぽ会
(東京学芸大学
幼稚園科同窓会)

〒184-8501
小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎
042(329)7813



『ウエルビーイングと レジリエンスと』

たんぽぽ会会長 田村 秀子

今年の夏は昨年にも増して暑くなる、まさに酷暑でした。子供を預かる園では、WBGT測定器を活用し、日陰や風通しのよい場所、クーラーの効く室内などでの生活を工夫されたことでしょう。

また能登半島地震からの復興がなかなか進まず、不自由な生活を強いられている方々、各地で大雨の被害に遭われた方々に、お見舞いを申し上げます。一日も早く平穏な生活が戻るようにと祈ります。

さて、パリのオリンピック・パラリンピックでは、観客が大勢いる状況の中で選手たちが熱い闘いを繰り広げていました。最後まで力を出し切る選手たちの姿に目が離せませんでした。卓球では三ゲーム取られても三ゲームを取り返し、最後の七ゲームでも絶対にあきらめない選手の姿を見て、このレジリエンス(折れない心)はどこから来るのだろうと思いました。選手たち一人一人の姿から、学ぶことがたくさんあります。

自園では、園長室から預かり保育

の様子がよく聞こえます。一学期に小さな積み木で集中してすごいドミノを完成させた子がいました。「お母さんがお迎えに来たら見せるんだ」と楽しみにしていました。周囲の子が「これ、すごいよね」と感心して眺めていると、子供の手が当たらないようにしようとした先生の手が見え、ドミノに触れてしまい、あつという間に崩れてしまいました。作った子は大笑し、その子の気持ちを察した一人の年長児が「先生のせいだ」と先生を叩きました。責任を感じた若い先生は叩かれるままになっています。私はその子を後ろから抱きしめて「〇〇ちゃんの気持ち分かるんだね。変わりに叩いてあげたんだね」と言いました。皆が「どうしたらいいんだろう」としばし途方にくれる時間がありました。そこで私は「こうなっていたんだっけな」とつぶやきながら、ドミノを再生しようとしてみました。すると「ここはこうなってた」と手伝う子が出てきました。「もう作れない、もう直せない！」と大泣きしていた子も、

涙を拭いて作り直し始めました。そして「気を付けよう」「もう少しだ」と互いに声をかけ合いながら、元通りの形を復活させました。子供たちの記憶力や観察力に感心するとともに、気持ちを切り替えて予想外のことに対応した子供たちを素敵だなどと思いました。

今、これからの教育として「持続可能な未来の創り手の育成」と「日本社会に根差したウエルビーイングの向上」が求められています。難しいことや予想外の状況にあきらめずに取り組むレジリエンスを育てることも大切です。「ウエルビーイング」は自己肯定感、自己実現など個人が獲得する能力や状態に基づくものでなく、人とのつながり・関係性に戻づくウエルビーイング(利他性、協同性、社会貢献意識など)もあり、両者を一体的に向上させることが大切と言われています。

子供たちには、主体的に自分のしたい遊びに取り組む中で、難しいことがあっても乗り越えられることに気付き、乗り越えようとする力を育てたいと思います。大人もまた、皆で話し合い、学び合い、力を出し合って、乗り越える楽しさや充実感を味わっていききたいものです。毎年のたんぽぽ会が新しい気付きやつながりのきっかけになれば幸いです。

【大学より】

歌う日々、コロナ禍を乗り越えて

東京学芸大学 准教授 水崎 誠

今年三月、本学の新型コロナウイルス感染症対策室が閉室され、五月には、講義棟各教室・教卓上のコロナ感染対策用間仕切りも撤去されました。アフター・ピوندコロナの日常が本学にも訪れています。大学キャンパス内には、学生や子ども達の笑い声が聞こえ、季節ごとの鳥や虫の鳴き声と素敵なアンサンブルを楽しんでいます。皆が好きな東京学芸大学サウンドスケープがひろがっています。

私の音楽授業で使用する「幼児教育音楽演習室」のパーティションも全て撤去され、代わりに大型空気清浄機が昨年より入りました。これにより、安心して一斉歌唱ができる環境が整備されました。マスク無しで歌う学生も多くなりました。

今年入学した一年生は、平成十七年度生まれです。彼女(彼)らは、子ども時代に芦田愛菜さんと鈴木福さんと一緒に「マル・マル・モリ・モリ!」を歌い踊って楽しみましたが、中・高校時代には音楽授業や合唱コンクール、そして卒業式で友達と歌うことが難しい状況にあった世代です。多くの一年生が「久しぶりに友達と声を合わせて楽しかった」と満了した表情で感想を述べました。二部合唱の響きに感動する学生もいました。

「歌唱」は楽器を用いず出来る最も自然な音楽表現と言われます。自らの声を歌にすることで喜びとなります。その歌声を他人と合わせることで、響きとなり、音楽の空間が生まれます。そこでは、共にあることの

大切さも体験することができると考えます。これからも充実した授業を展開していきたいと思えます。

さて、今年度、本学幼児教育コースおよび附属幼稚園は、左記の事業へ応募し採択され、受託しました。

【委託事業名】

文部科学省 令和六年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業(「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業)

○本学事業テーマ…魅力がこたまする保育職Ectoモデルの開発

○概要…地域の幼児教育を担う人材を輩出する大学等が拠点となり、養成校入学前からの幼児教育の現場の魅力発信、学生・卒業生のキャリア支援や、離職者等が現場に復帰するための支援等を行うモデルを創出し、効果的なキャリア支援の在り方や、幼児教育の魅力

発信のアプローチ方法について検証を行う。

本事業の一環として、七月におこなわれた大学説明会では附属幼稚園教員による「幼稚園教員の魅力を語る」がありました。将来保育者を目指す高校生に向けた丁寧な語りは、たいへん好評でした。同事業では卒業生を訪ねる取り組みもあります。教員と希望学生が、国内の様々な保育現場を訪ねていきます。本学幼児教育コースのホームページには、本事業の取り組みや開催イベントを随時発信しています。お時間のある時には是非ご覧ください。

現在の学生数は、学部で八十九人、教職大学院(幼児教育サブプログラム)で六人です。令和五年度卒業生で保育者としての就職は約八割です。実習やボランティアなど様々なところで、たんぽぽ会の先輩方には大変お世話になっています。関係の諸先生方には引き続きご指導賜りたく、心よりお願い申し上げます。

令和6年度 たんぽぽ会 総会 研修会

あおぞらワッペンさん
(アスクミュージック所属)
による
「みんなで雨季ウキコンサート」

梅雨入りを感じさせないような日

差しが降り注ぐ令和6年6月29日
(土)に、東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎を会場として令和6年度たんぽぽ会総会・研修会が開催されました。保育室内の大型ディスプレイに総会の次第や資料を映し出しながらの進行は、現在推進されている教育現場でのICT機器の活用を体感する時間にもなりました。ご来賓として、東京学芸大学辞職会会長 馬淵貞利様をはじめ、一般社団法人東京学芸大学同窓会理事長 森富子様、大学からは平野麻衣子准教授にもお越しいただきました。

総会では、令和5年度の事業及びび

計報告、令和6年度の役員、事業計画案・会計予算案が全て承認されましたことをご報告いたします。また、昨年度に約七年ぶりの更新を行った会員名簿の発行についてもお知らせしました。

※会員名簿は、掲載間違いがないよう、住所不明の方、掲載を希望されない方、亡くなられた方などは、住所等を全て白紙とすることにいたしました。

総会後の研修会では、アスクミュージック所属のあおぞらワッペンさん(パントマイム 金子しんぺいさん・シンガーソングライター 千葉純平さん・山田リイコさんの三人によるユニット)をお招きし、コンサートを開きました。座席が足りなくなるほど多くの方が訪れ、開演前からワクワクと期待が会場の遊戯室中にあふれていました。

あおぞらワッペンの三人が元気に「はじまるよ」はじまるよ」の歌で幕が開くと、あつという間に遊戯室はコンサートホール

の雰囲気になりました。「みんなで雨季ウキコンサート」のタイトルにちなんだ雨の歌メドレーや「手のひらを太陽に」など、軽快かつ素敵な歌声とメロディーに、参加者からも自然と手拍子が起こりました。パントマイムを交えた遊びや観客参加型のジェスチャークイズでは、会員のお子様たちが大活躍でした。その他にもアイドル曲やタオルを振り回すダンスなど、様々なジャンルの楽曲や遊びを惜しげもなく披露してください、会場は常に大盛り上がりでした。

一緒に歌ったり笑ったりしながら、様々な方法で伸び伸びと表現をする楽しさや面白さを全身で味わうことのできた時間となりました。アンコール後、あおぞらワッペンの三人がコラボした図鑑のプレゼントもいただき、田村会長が代表で受け取りました。コンサートで披露してください、プログラム及び当日の雰囲気や写真を紹介しています。ぜひご覧ください。



みんなで雨季ウキコンサート

今年度から研修会は年一回開催となりました。次年度の研修会も充実した時間になるよう、役員一同準備を進めてまいります。
「こんなことを学びたい」「この方を選んでほしい」などのご意見がありましたらたんぽぽ会HPのお問い合わせ欄や同窓会Gメールアドレスまでご連絡ください。

〈特集〉

学芸大 幼稚園科 卒業生の 活躍

笑顔が一番

五十八回生

ロンドンの幼稚園勤務

崎元 美里

「笑顔が一番」は、在学中、講義内で作成した絵本のタイトルです。私の母が様々な言い回しで自身に掛けてくれた言葉で人生のキーワードとなっており、絵本のタイトルに選んだと記憶しています。学級運営の一つのキーワードでもあり懇談会の資料タイトルにすることもあります。

私は現在、英国ロンドンの幼稚園で勤務しています。日本の幼稚園教育要領、保育所保育指針をベースとした教育課程とEYFS（英国の幼児教育指針）に準じた保育内容で、日本語での保育をしています。

ロンドンでの生活は現在四年目です。日本の幼稚園に勤務していたときのように幼児理解、保護者

対応、タスク管理に悩みますが、休日にはミュージカル鑑賞をしたり、パリに通ったり、ヨーロッパ旅行をしたりすることがモチベーションと保育活動のインスピレーションにつながっています。仕事もプライベートも「笑顔が一番」で過ごすことを日々大切にしています。

海外への挑戦は、学芸大学での学びと経験が大きなきっかけでした。入学してまもなく、学大は教育実習期間があるために他大学と比較すると夏休みが長いと知りまし。生協にあった留学紹介チラシを見て、在学中に海外の幼児教育を学ぶ留学をする決意をしました。講義や先輩の卒論発表会も海外の幼児教育への興味につながり、ニュージーランドで一カ月のボランティア留学をしました。前述の絵本作りでは、留学時の学びを生かして多文化理解や世界が広がることについて描きました。この絵本は卒業後、担任していたクラスで読み聞かせもしました。そのクラスにいた女兒が世界地図パズルをしていたときのことです。地図上の青い部分が何かを聞かれました。私は「海だよ。紙の上ではそうではないけれど、本当は世界

は海でつながっているんだよ」と話すと、その子は「へえ！海って広いんだね」と目を輝かせました。その瞬間に鳥肌がたったことを覚えていています。

留学経験が忘れられず、「来年度の夏休みに、社会人留学のため一週間休みをください！」と年度末に宣言し、諸先輩方の理解のもと、夏季休業中の日直体制を調整していただいてオーストラリアに一週間、現地幼稚園ボランティアにも行きました。

現在の勤務園では、日本語教室での勤務もしています。昨年少ども日本語教師の資格を取得しました。卒論では、留学先の園で外国籍幼児の観察をもとに集団生活の中での現地言語獲得の姿をまとめたのですが、卒論での興味が現在につながったと思っています。

渡英後は学びの楽しさ、幼児教育のおもしろさを教えてもらった学芸大学と諸先輩方、そして友人との出会いが大変貴重なものだと感じる事が多く、様々な自分に関わってくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。昨年からは英国の幼児教育について学びを深めたいとカンファレンス、幼児教育展示会に参加するようにし、

英国の教育資格の取得を次の具体的な目標、挑戦にしたいと考えているところです。

「笑顔が一番」と思って行動することが決断力となり、経験や感性を豊かにしています。自分の経験を誰かに話すときに「よい経験だった。自分の糧になった」と言えるよう、いつまでも笑顔を一番に、挑戦と学びを継続させ、幼児教育に携わっていききたいと思っています。



写真上：幼児教育の展示イベントにて。表現遊びを広げる環境の一例。
写真右：特別支援教育の講演会の様子



「アナウンサー・ディレクター として『伝える』ことの楽しさ」

四十三回生

フリーアナウンサー

(元 山陰中央テレビ アナウンサー)

金本 史子

(芸名：栞田ひとこ)

学芸大学に入学したのは32年前。この冬、長女が大学受験を控え、時の流れを感じています。大学時代の原風景は幼稚園科生の熱気のこもった「科室」です。授業の合間に集うにぎやかな空間は、今も健在なのか。と時折懐かしく想っています。卒業後は、フジテレビ系列の山陰地方のテレビ局に就職し、アナウンサー兼番組制作のスタッフとして約九年間在籍しました。地方局ではアナウンサーも記者やディレクターを務め、原稿を書いて編集も行います。私も現在はフリーランスではありませんが、週末のニュースキャスターやイベントの司会などをしながら番組のディレクターも務めています。若い頃はたくさん失敗し、たくさん挫折を繰り返してきました。一番インパクトの強い失敗は入社一年目の冬のこと。スキー場開きのニュース中継で、突然頭の中が真っ白になりました。スタジオから「現場の栞田さん」と呼びかけられた途端：コメントが全部飛びました！今いる町の名前も、スキー場の名前も、何も

出てこない。リハーサルでは何度も上手く言えたのに…と頭の中はパニックです。「えっと、えっと」を繰り返した後、見かねたディレクターの機転で滑り降りたものの、緊張で転びまくる始末。スタジオの先輩方にフォローしていただくという大惨事でした。今では後輩に語り継がれる笑い話ですが、しばらくはトラウマとなつてスキー場に行くこともできずしてしまいました。

レギュラー番組の司会では、出演者の会話をうまく引き出せず一人空回り。批判のFAXが届いたり、クレームの電話を自分で受けたことも自分の不甲斐なさに帰りの車では涙が止まらず、両親に心配かけぬよう涙が止まるまで家の周りを何往復もした時期もありました。

徐々に話すことが怖くなつていた頃、立ち上がるきっかけになったのは一枚の愛らしい写真でした。ブラウン管に映る私に画面越しにチューをする三歳くらいの子の写真です。お母さまからの温かい手紙と一緒に届きました。手紙には「娘は優しく話してくれるお天気お姉さんが大好きです。がんばってください」と綴られていました。そのときに思い出したのは、大学の教育実習の「絵本の読み聞かせ」でした。子どもとの触れあいの中で、私が一番大好きだった時間です。一生懸命に絵本を見つめ、時折読み手の私の顔をのぞき込む子どもたち。ストーリーに合わせて変化する子どもたちの豊かな

表情に癒され、「伝える」ことの楽しさを知るきっかけとなりました。アナウンサーとして文章をきれいに正しく読むだけでなく、カメラの向こう側で見てくれている人を思いながら伝えよう。女の子のおかげで、自分の中に強い芯が芽生えた感覚がありました。

20代の頃の仕事の配分はアナウンサー業六割、ディレクター業四割でしたが、歳を重ねた今、アナウンサー業一割、ナレーション・司会業三割、ディレクター業が六割と変わってきました。私の中で、アナウンサーとディレクターに優劣はありません。アナウンサーは言葉を「伝える」仕事ですが、言葉そのものを生み出しているのがディレクターです。

五年前から私がディレクターとして携わっている山陰中央テレビで放送中のミニ番組があります。「TAKUMI」山陰の創造者たち。そしてこの春にリニューアルした「TAKUMI」手仕事の恵み。これらは、山陰の工芸作家さんの匠の技やこだわりを紹介する番組です。山陰地方限定の番組ですが、YouTubeで4K配信されています。もしご覧になった方がいらつしやればともうれしいです。紹介する作家さんたちは、それぞれの歩んできた道のり・人となり・創作へのこだわり・未来への思いに溢れています。打ち合わせや撮影を進めるごとに、知れば知るほど奥深く…五分という短い時間では到底伝えきれないのが現実

です。しかし、その限られた枠内できかに生きた言葉を用い、輝きを伝えられるか。作家さんを思い、また、視聴してくださる皆さんに分かりやすく伝えるよう、最適な言葉を紡いでいくのが制作者の使命であり、喜びです。そうして出会ってきた60人を超す作家さん達とご縁は、今も永く続いています。ディレクターとして制作し、アナウンサーとして伝えることが、この歳になつてより楽しくなっています。

私にとっての「伝える」原点は、大学時代の経験です。数年に一度上京する際には、SNSでつながる幼稚園科の友人に会い、素晴らしい刺激をいただいています。進む道は違っても、それぞれの世界で奮闘する友人の姿は誇りであり、今でも大きな支えとなっています。

来年の春、大学生となるわが子には、どんな出会いが待っているでしょうか。自分らしい輝きを見つけてほしいよう、そつと見守っていききたいと思えます。



写真：TSKNEWSイット！放送中の様子
令和5年3月

各期のたより

「今」を生き、一緒に歳を重ねる

三十六回生 関 武代

今年一月十三日(土)に、引越す同期の呼びかけで、急遽集まれる八人が集まりました。サンドイッチなどワイワイ買い物をしてご自宅へあつという間に心は大学時代にワープして、近況報告をし合い、楽しい時間になりました。

私たちの代は、幼稚園勤務だけでなく、小学校や大学、一般企業や子育て支援施設を立ち上げたり、家庭に入って子育てや介護を担ったりなど多種多様です。ヨーロッパ在住の友達が日本に来るときなどには声を掛け合って、数年に一度集まってきました。グループLINEや年賀状でも、介護に向き合っていること、幼稚園の子どもが少なくなっていること、農業に就いた若者の厳しい現状、田舎に帰ったら五十歳代でも若者と呼ばれるなど、「今」が語られています。

連絡がとれない人もいます。みんな元気にしているかなあ。ご連絡ください。

大切な宝物

四十六回生 和田 裕美子

幼稚園科で学ぶことができたきっかけは、当時幼稚園教諭であった亡き母の勧めでした。私にとって高嶺の花の学芸大、センター試験が思うようにいかず、当然前期試験は不合格。そのとき知り合った子となぜか意気投合し、併願している大学まで一緒というただならぬ縁を感じた人が、今も大親友であるUさんです。

大学時代の思い出は他にもたくさんあります。科室や誰かの家で集まっては大笑いしたこと、励まし合って乗り越えた様々なこと、心に残るあのひとこと：語りつくせないエピソードが多くあり、今でもたくさんのお親友と強い心の絆でつながっています。

今、私は大阪市内の小学校に勤務し、非常に慌ただしく厳しい毎日を送っています。つらいときに思い出すのは学生のときに学んだこと、楽しかった思い出です。

学芸大学での四年間は、私にとって大切な宝物です。お世話になった先生方、友人たち、厳しくも温かく見守ってくれた亡き母に感謝の思いでいっぱいです！

たんぽぽ会のホームページに情報を載せています！

研修会の情報やたんぽぽ会からのお知らせを随時更新しています。
ぜひご覧ください。



<たんぽぽ会のメーリングリストにご登録ください！>

研修案内や総会資料など、たんぽぽ会からの情報が届きます。下記のメールアドレスまでお名前と何回生か(または卒業した年)を添えてメールをお送りください。

tampopokai.tgu@gmail.com

<会費納入のお願い!!>

たんぽぽ会の運営維持のため、会費のお振り込みをお願いします。12月末日までにお振り込みください。

会費 2,000円

振込先 三菱UFJ銀行 小金井支店

普通口座：0427768

口座名：東京学芸大学幼稚園科同窓会

会長 田村 秀子

※ 振込人には何回生かの数字とお名前を入れてください。

《インフォメーション》

★令和7年度 たんぽぽ会総会・懇親会

令和7年6月21日(土) 予定

東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎にて

★令和6年度卒業論文発表会

令和7年 1月25日(土) 9:00~

東京学芸大学にて

令和6年度 たんぽぽ会役員

会長 田村 秀子(29回生)

副会長 小澤 明子(30回生)

青山 伸子(36回生)

庶務

研修 女屋 旬子(36回生)

小池 友美(43回生)

大川 美紀子(44回生)

澤田 亮(51回生)

会報 川崎 暁子(46回生)

山本 遼(60回生)

事務局 八木 亜弥子(48回生)

会計 船水 智恵子(58回生)

増子 梨央(66回生)

会計監査 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎

園長・副園長

監事 井口 美恵子(21回生)

永井 由利子(21回生)